

第7回IR推進会議 概要

参考資料1

<日時>

平成30年2月21日(水)13:00～15:00

<場所>

大阪府庁本館5階 議会特別会議室(大)

<検討事項にかかる主な意見>

テーマ	主な意見
◆IR推進局の 平成30年度 の主な取組み	依存症対策研究会の研究テーマとして、IT技術の進歩を踏まえた先進的な依存症対策の研究が掲げられているが、この分野で大阪がリードしていくことが大事であり、研究会のメンバーにもデータを扱う専門家や有識者をぜひ加えるべき。
◆IRの成功と 失敗	- 大阪IRは、海外事例なども参考に、カジノはIRの一部にすぎないという前提のもと、顧客ニーズに併せてノンゲーミングの割合も増やしていくべき。 - 大阪でIRを考える時には、放っておいても集客が見込めるシーズンよりも、人が来ないシーズンオフや平日に、イベントやコンベンションの誘致などを考えていくべき。 - 治安対策や交通対策等についても、国際化が進展する中、いろいろな問題が発生してきているため、依存症対策研究会と同じように、IRを契機に、実務レベルの研究会などで官民が一緒になって検討していくべき。 - 夢洲を念頭においたまちづくり、広域観光、大阪・関西との連携などのテーマについては、IR事業者ができる分野と、大阪の民間事業者や経済界が考えるべき分野があるので、どのように検討していくのか考えていくべき。 - 魅力づくりや持続的なまちづくりを考えるために、都市政策やマネジメントなどを横断的に、実務レベルで検討できる組織体系づくりが必要である。魅力づくりについては、レガシー活用や文化的側面、広域連携も含めた視点でも、実務レベルの検討を進めるべき。 - 大阪は周辺にたくさんの観光資源があり、それらをIRやMICEのオプションルツアーなどを契機に活性化、連携していくべき。 - IRやオプションルツアーのターゲットとして富裕層があげられるが、日本は富裕層対策のレベルが相当低いので、実際に富裕層を動かしている例などを参考に、時間をかけてネットワークづくりからやっていく必要がある。 - 人づくりについて、特に観光、サービス産業は給料も低く、人材が集まりにくい状況にあり、数も質も足りていないので、人材育成を急ぐことが必要である。どのように大阪・関西で人材を供給していくのかということも検討していくべき。